

# 長崎県感染症発生動向調査速報

平成24年第11週 平成24年3月12日（月）～平成24年3月18日（日）

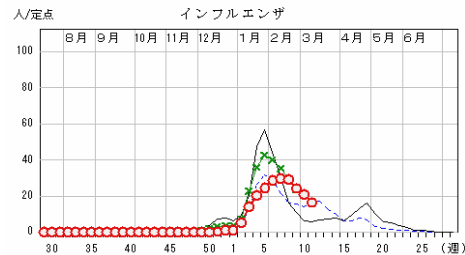
## ☆定点報告疾患（定点当たり報告数の上位3疾患）の発生状況

### （1）インフルエンザ

第11週の報告数は1150人で、前週より306人少なく、定点当たりの人数は16.43であった。

年齢別では、10～14歳（227人）、6歳（120人）、5歳（116人）の順に多かった。

保健所別の定点当たり人数は、県南保健所（26.88）、対馬保健所（24.67）、県北保健所（20.25）が多かった。

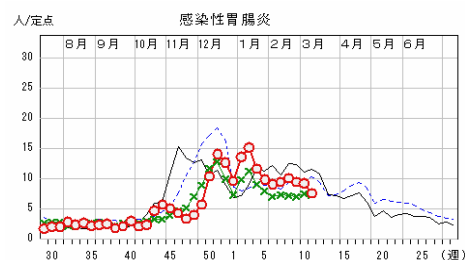


### （2）感染性胃腸炎

第11週の報告数は333人で、前週より74人少なく、定点当たりの人数は7.57であった。

年齢別では、1歳（54人）、10～14歳（42人）、3歳（35人）の順に多かった。

保健所別の定点当たり人数は、長崎市保健所（11.40）、県南保健所（10.80）、西彼保健所（9.75）が多かった。

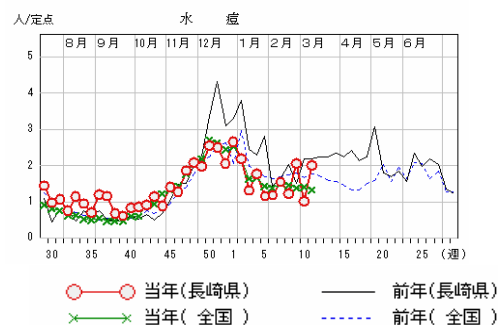


### （3）水痘

第11週の報告数は88人で、前週より43人多く、定点当たりの人数は2.00であった。

年齢別では、2歳（21人）、1歳（15人）、5歳（12人）の順に多かった。

保健所別の定点当たり人数は、県央保健所（3.17）、佐世保市保健所（2.83）、長崎市保健所（2.40）が多かった。



## ☆トピックス・季節情報

### 【インフルエンザ】

長崎県における第11週の報告数は1,150人で、前週より306人減少して、定点当たりの人数（16.43）は前週（20.80）を下回り、第7週のピーク（29.79）以降4週続けて減少しています。報告数は県南、県北地区、及び離島である五島、対馬地区を除く県下全域で減少傾向にあります。流行のピークを越えたとはいうものの、依然、先週と同様に西彼、県北地区で注意報レベル、五島地区を除くすべての地区で警報レベル、県全体では注意報レベルの状態にあります。今週も定点当たり報告数の上位3疾患のトップとなっています。第1週から3月21日までの間に、県下の幼稚園や保育所、小、中および高等学校等において、3校（園）が臨時休業、85の学年閉鎖及び160の学級閉鎖が報告されています。全国的には本年、A香港型が大流行しておりますが、長崎県下では昨年本土地区の学童を中心に他府県に先駆けてA香港型の比較的大規模な流行が起りましたので、昨年以上の流行にはなっていないようです（図参照：☆定点報告疾患（定点当たり報告数の上位3疾患）の発生状況 インフルエンザ）。A型流行のピークは越えましたが、B型は4月初旬頃まで流行がみられますので今後の動向に注視し、感染予防に心掛けましょう。

当研究センターに搬入された患者の検体について3月分の検査を実施したところ、A/H3、いわゆるA香港型のインフルエンザウイルスの遺伝子およびB型の遺伝子がほぼ同率で検出されており、臨床診断では大半の地域でB型が主流となっているようですが、一部の地域では依然A/H3型の流行が継続しているようです。本県では、今シーズンは当初からB型が検出され、A/H3型、B型が混合したインフルエンザ流行の様相を呈しました。流行の推移も例年とは異なり、A型、B型の二峰性を迎えるのではなく、一峰性のブロードな流行のピークを形成したことが混合型の流行であったことを物語っています。

インフルエンザには抗インフルエンザ薬がありますが、予防にはワクチン接種が有効な手段の一つです。また、体調に異変を感じたらできるだけ速やかに近隣の医療機関を受診しましょう。当疾患に罹患しても抗インフルエンザ薬の普及により欠席日数が少なくなっているようです。解熱してもしばらくはウイルスが排泄されていますので、他の人にうつさないためにも十分な休養をとりましょう。小さいお子さんや高齢者はもとより、学生や一般の方々も外出からの帰宅時にはうがい、手洗いの励行、マスク着用などによる「咳エチケット」で積極的な感染防止に努めましょう。

県内の保健所別定点当たり報告数と警報・注意報レベル状況(インフルエンザ)  
長崎県(2012年第11週)

	今週		1週前		2週前		3週前		4週前		5週前	
	定点	状況	定点	状況	定点	状況	定点	状況	定点	状況	定点	状況
佐世保市	13.55	○	19.82	○	23.09	○	25.82	○	25.00	○	22.73	○
長崎市	17.65	○	28.65	○	31.18	○	38.00	○	43.94	○	43.24	○
壱岐	17.67	○	20.67	○	26.67	○	30.00	○	24.67	△	17.33	△
西彼	16.83	△	24.17	△	28.33	△	25.00	△	28.67	△	22.67	△
県央	13.40	○	14.60	○	24.30	○	34.50	○	30.10	○	23.00	△
県南	26.88	○	25.38	○	22.13	○	25.88	○	28.88	○	36.13	○
県北	20.25	△	15.75	△	16.75	△	25.25	△	28.25	△	20.50	△
五島	1.20	-	1.00	-	3.20	-	6.60	-	7.60	△	10.80	△
上五島	12.33	○	21.33	○	26.33	○	33.67	○	19.67	△	19.33	△
対馬	24.67	○	21.00	○	26.33	○	30.33	○	25.00	○	36.67	○
<b>長崎県</b>	<b>16.43</b>	<b>△</b>	<b>20.80</b>	<b>△</b>	<b>24.21</b>	<b>△</b>	<b>29.26</b>	<b>△</b>	<b>29.79</b>	<b>△</b>	<b>28.51</b>	<b>△</b>

警報・注意報レベルの基準値(定点当たり報告数)

- : 警報レベル
- △: 注意報レベル
- : 警報・注意報なし

警報レベル		注意報レベル
開始基準値	終息基準値	基準値
30	10	10

【感染性胃腸炎】

長崎県における第11週の報告数は333人で、前週より74人減少し、定点当たりの人数が7.57で、全国定点当たりの人数7.41を若干上回っています。インフルエンザの流行の影に隠れていますが対馬以外の地域で報告が上がっており、今後の動向に注視していく必要があります。

感染性胃腸炎は、細菌又はウイルスなどの病原微生物による嘔吐、下痢を主症状とする感染症です。年齢別に見ると、報告の多くが1~2歳の乳幼児が占めています。原因はロタウイルス、ノロウイルス、エンテロウイルス、アデノウイルスなどのウイルス感染による場合が主流ですが、細菌性の場合もあります。ロタウイルスについては昨年7月にワクチンが製造承認されており、予防することが出来ます。小さいお子さんがいらっしゃるご家庭では、保護者の方が手洗いの励行、体調管理や体調の変化に心掛けてあげるなどして感染防止に努め、早目に医療機関を受診させてあげるよう心がけましょう。

【水痘】

長崎県における第11週の報告数は88人で、前週より43人多く、定点当たりの報告数は2.00でした。五島、対馬地区以外の地域から報告が上がっており、例年の傾向からみても春先にかけて患者の増加が認められますので、今後の動向に注視していく必要があります。

水痘は水疱瘡(みずぼうそう)とも呼ばれ、原因となる水痘帯状疱疹ウイルスは伝播力が強く、ウイルスを含む飛沫あるいは飛沫核を経気道的に吸入することによる飛沫感染あるいは水泡の内溶液と触れることによる接触感染により感染が成立します。手洗いの励行、体調管理に心がけ感染防止に努めましょう。

